

○今月の病害虫発生状況○

- ・炭疽病の発生はやや少なく、うどんこ病及び萎黄病の発生は少ないです。
- ・ハダニ類の発生は少ないです。
- ・ハスモンヨトウの本ぽにおける幼虫発生は平年並ですが、フェロモントラップの成虫誘殺数はやや多いです。

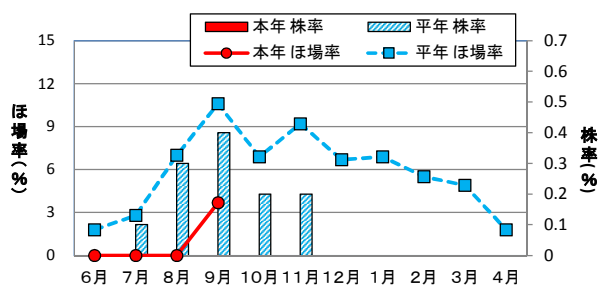


図1 炭疽病発生ほ場率・発生株率の推移

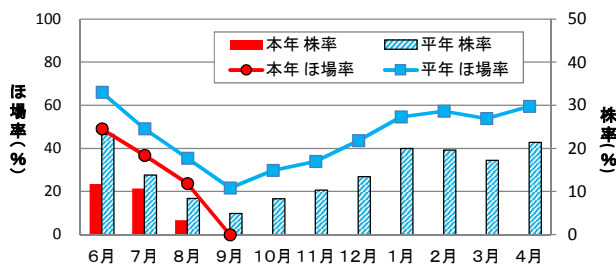


図3 ハダニ類発生ほ場率・発生株率の推移

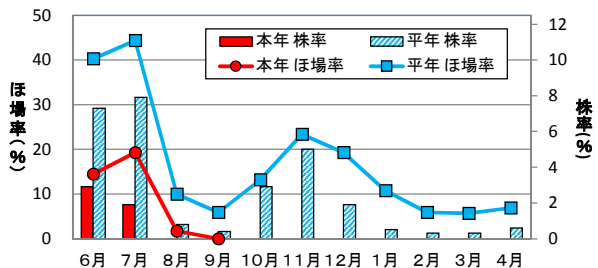


図2 うどんこ病発生ほ場率・発生株率の推移

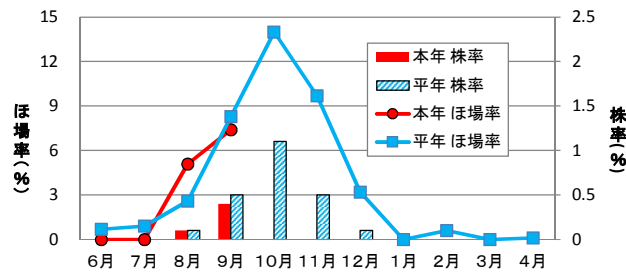


図4 ハスモンヨトウ幼虫発生ほ場率・発生株率の推移

○今月の技術情報（技術指導班）○（9月）

- ・育苗期の高温の影響により、頂花房の花芽分化にばらつきが見られますが、定植作業はおおむね順調に進んでいます。
- ・定植後の土壌水分が不足すると、初期生育が抑制されますので、不定根の発生と畝内部への根張りを促進するため、かん水は少量多回数で行いましょう。そして、地上部と地下部のバランスのとれた生育となるように適正な草勢管理に心がけることが大切です。
- ・現在の病害虫の発生は、平年並から少ない状況ですが、日常のこまめな観察により病害虫の早期発見に努め、発生が見られた場合は、本ぽでの発生が拡大しないよう、天敵やミツバチ導入期、保温開始までにしっかりと防除しましょう。
- ・向こう1か月の平均気温は高い見込みとなっていますので、マルチ張りは一次腋花房の花芽分化期以降に行うようにしましょう。日頃から最新の気象情報をこまめにチェックし、いちごの生育に合わせた適期作業を心がけてください。



写真1 炭疽病・クラウンの病徴



写真2 葉に発生したうどんこ病